

単行本執筆要領

謹 啓

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度弊社にて、単行本『相続・終活コンサルティング事例集 2027』を制作・発刊させていただくこととなりました。著者の皆様におかれましては、よろしくお原稿のご執筆を賜りますよう、お願い申し上げます。

つきましては、お原稿の執筆要領を下記の通りまとめましたので、ご確認を賜りたく存じます。

お忙しい中誠に恐縮ではございますが、何卒、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

記

<題名>

『相続・終活コンサルティング事例集 2027』

<内 容>

相続診断士を対象に、自分たちが実際の相談事例で、どのように問題を解決していったのか、「成功」「失敗」の事例として紹介し（30 事例）、相続コンサルタントとして活躍するためのポイントを探っていきます。

<判型ほか>

・ A5 判、縦組み、240 ページ程度、ですます調

<構成>

1頁 = 50字 × 17行 = **850字**

◆相続・終活のコンサルティング事例（成功・失敗事例）（30事例）

- ①項目タイトル }
②家族構成（系図）と財産内容 } 1頁（『2026年版』『2025年版』等を参照のこと）
③本文2,500字
- (1) 家族・財産等の状況
(2) 相続対策として実行した事実
（あるいは計画していたこと）
(3) 上記(2)の結果、どうなったか。
（あるいはどのような結果が予測されるか）
(4) 教訓——上記(2), (3)の経験から学ぶこと
（あるいは、どのようにしてリカバリーするか） } 3頁（適宜見出しを付けること）
- ④ 弁護士・税理士等によるコメント 300～500字 } 1頁
※事例採用後、担当の士業が執筆します。

<項目の例>

- ・遺言書
- ・エンディングノート
- ・認知症対策
- ・相続税・遺産分割・事業承継
- ・身の回りの整理
- ・保険・信託
- ・葬儀・お墓

※ 昨年（2026年版）の項目は、「遺言書」「終活・エンディングノート・認知症対策」「不動産」「保険・信託」「相続税・遺産分割・事業承継」でした。

<原稿を書く上での注意点> 必ずお読みください！

- ① ご執筆いただくエピソードは「実例」に基づいていると存じますが、各項目のテーマとは関係のない些末な事情を説明したり、現実の家族関係を不必要に細かく描出するなどは避け、「**簡潔に、わかりやすく**」を念頭にお書きください。
- ② 過度に丁寧な表現は避けてください。
(例) お母様はご遺言を残しておられました。 ➡ 母親は遺言を残していました。
本書は相続を円滑に進めるためのノウハウを紹介する「実務書」であり、想定読者は「不特定多数」ですので、**過度な丁寧語、謙譲語等は不要**です。
- ③ 過度に情緒的な内容にはならないよう、ご注意ください。相続が主題ですので、エピソードはどうしても「愛情」、「憎しみ」、「恨み」、「思いやり」……等の感情が交錯する展開となりがちですが、「成功・失敗事例からの教訓」そのものが「親の子を想う心」などという情緒的な結論は避けて、相続対策成功・失敗の本質、各種制度や特例等の活用などについて、**できる限り客観的に、実証的に**ご解説ください。
- ④ お原稿は、最終的に編集者が適宜修正する可能性がありますので、予めご了承ください。

株式会社 **日本法令** 出版部出版課 竹渕 学／田村和美

〒101-0032 東京都千代田区岩本町 1-2-19

TEL 03-6858-6956 FAX 03-6858-6957

E-mail takebuchi@horei.co.jp／tamura.k@horei.co.jp
